

天邪鬼

2025. 3. 27

人には、自己限定の意識というものがある。自分には才能が無い、自分にはできないと、自分の能力と可能性を限定してしまう深層意識である。この深層意識が、恐ろしいほどに、自分の才能の開花を妨げてしまう。したがって、もし、自分の才能を開花させたいと願うならば、まず最初に、自分自身の心の奥深くを見つめ、自らに問うべきである。自分の中に多様な才能が眠っていることを、自分は心の奥深くで本当に信じているのか。このことを問うべきである。

表層意識では、自分の才能を開花させたいと思っても、深層意識の世界で、自分には才能が無い、自分にはできなと思っていますとする。そうすると、その深層の想念が才能を委縮させ、抑圧してしまうため、それを開花させることはできなくなる。それは、あたかも、右足で自動車のアクセルを踏みながら、左足でブレーキを踏んでいることと同じである。

実際、表層意識でアクセルを踏みながら、深層意識ではブレーキを踏んでいる人は多い。学校の教員で考えてみる。異動がない教員であれば、この時期には、次年度の自分のポジションや仕事内容がわかるだろう。果たして、よしやるぞと思っているだろうか。あるいは、自分にはできなと思っていますだろうか。表層意識では、自分ならばできると思いながらも、深層意識では、自分にはできなと思っています。アクセルを踏みながら、ブレーキを踏んでいる。

人間の潜在意識や深層意識の世界は、天邪鬼である。潜在意識や深層意識は、しばしば、表層意識が思っていることと逆のことを思う傾向がある。心の世界は、プラスの想念だけが発生するのではない。同時に、マイナスの想念も発生してしまう。特に、表層意識のところ、無理やりプラスの想念を引き出すと、深層意識にマイナスの想念が生まれてしまう。

4月1日に、新たな職場に赴任する。これから務めるべき自分の役職や仕事の概略がわかる。表層意識の世界において、これからがんばるぞという思い、すなわち、プラスの想念を無理やり引き出すと、むしろ逆に、深層意識の世界では、うまくできないんじゃないかという不安、すなわち、マイナスの想念が溜まっていく。

表層意識では、できると思っても、深層意識は、そう思っていない。表層意識ができると思えば思うほど、逆に、深層意識は、できなと思っています。そして、この深層意識が、能力の発揮や才能の開花を抑えてしまう。

人間の心の世界は、天邪鬼の世界であり、怖い。潜在意識の世界には、天邪鬼な性質がある。そのことを理解しておくべきである。